



	日本人(喜多)	歐洲人	黑人	ベルベル
--	---------	-----	----	------

二 個	一四・〇	二・七	一三・二	二・〇
-----	------	-----	------	-----

三 個	六四・〇	五四・〇	二五・〇	三一・〇
-----	------	------	------	------

四 個	二二・〇	四〇・五	五四・四	} 六五・八
-----	------	------	------	--------

五 個	〇	二・七	七・四	
-----	---	-----	-----	--

六 三稜筋 (M. pyramidalis) の缺除、三・六% (足立)、三・二% (小金井、新井)、歐洲人一五―二〇%、黑人一〇・九%。

七 小腰筋 (M. psoas minor) の出現、四八・七% (小金井、新井)、四九・五% (足立)、支那人五一%、歐洲人四四・〇%、黑人四八・三%。

八 小圓筋 (M. teres minor) の分離不全及び缺除、二七・五% (足立)、二四・二% (小金井、新井)、歐洲人二四%。

九 二頭膊筋 (M. biceps brachii) の第三頭出現、一五・七% (足立)、一四・二% (小金井、新井)、歐洲人九・二%、黑人二二・五%。

一〇 長掌筋 (M. palmaris longus) の出現、九六・六% (足立)、九六・三% (小金井、新井)、支那人九七・八%、歐洲人八四・六%、黑人九五・〇%。

一一 總指伸筋 (M. extensor digitorum communis) の第四腱の缺除、一〇・六% (小金井、新井)、黑人三・四%。

一二 固有小指伸筋 (*M. extensor digiti V proprius*) の終腱分裂 三二・三% (小金井、新井)、歐洲人七〇%、黑人甚だ多しと云ふ。

一三 上孖筋 (*M. gemellus superior*) の出現 一〇〇% (足立)、歐洲人九二・〇%、黑人九三・〇%。

一四 梨子狀筋 (*M. piriformis*) の腓骨神經にて穿通せられるもの 三六・一% (足立)、二〇・八% (小金井、新井)、歐洲人一九・八%。

一五 方形股筋 (*M. quadratus femoris*) の缺除 一・四% (足立)、二・一% (小金井、新井)、歐洲人二・三%。

一六 足蹠筋 (*M. plantaris*) の缺除 一一% (足立)、一一・三% (小金井、新井)、歐洲人七・一%、黑人五・三%。

一七 第三腓骨筋 (*M. peroneus tertius*) の缺除 四・〇% (足立)、三・二% (小金井、新井)、歐洲人八・二%、黑人九・三%。

一八 短總屈趾筋 (*M. flexor digitorum brevis*) の第四腱の出現 七五・六% (足立)、七〇・五% (小金井、新井)、歐洲人七九・五%、黑人八一・九%。

右の下腿三筋の性状に於ては、日本人は歐洲人、黑人等より遙に進化的である。なほ足立氏によれば日本人眼球の諸直筋中、外直筋は最長、内直筋は最短なるに反し、歐洲人にては外直筋最短、内直筋最長なりと云ふ。

### 第三節 脈管學 (Angiologie)

#### 一 血管系統

## A 心 臟

日本人心臟に就ては安田、金子、平野、工藤、木崎、藤浪氏等多數の研究がある。又、臨床上より局處解剖學的にも調査されてゐる。然しその形狀、重量、異常の頻度等に於ては明確なる人種的差異を認め難い。重量平均は金子氏によると男二五八瓦、女二三九瓦、男女平均二五二瓦。之は歐洲人のそれに比して小であるが、體量に對する比は大差ない。平光氏等によるとアイヌは本比例稍、大である。又木崎氏によれば日本人心臟の卵圓孔開存は男二一%、女一三%、合計一七%、歐洲人三二乃至五〇%なりと云ふ。

## B 動脈系統

日本人動脈系統に就ては足立博士の名著“Das Arteriensystem der Japaner”に集成されてゐる。本報告の結論を見ると、種々の點に於て歐洲人との間に著差を認める。主なものは、

- 一 上喉頭動脈 (*A. laryngea superior*) の直接外頸動脈より枝出するもの  $4.2 \pm 1.37\%$ 、歐洲人  $13.4 \pm 1.42\%$ 。
- 二 上行口蓋動脈 (*A. palatina ascendens*) の直接外頸動脈より枝出するもの  $23.0 \pm 3.96\%$ 、歐洲人約  $7\%$ 。
- 三 内顎動脈 (*A. maxillaris interna*) (a) 外翼狀筋の内側を走るもの  $6.3 \pm 1.34\%$ 、歐洲人  $57.6 \pm 1.82\%$ 。(b) 三叉神經第三枝の内側を走るもの  $0.3 \pm 0.30\%$ 、歐洲人  $5.8 \pm 1.32\%$ 。(c) 頬筋神經の内側を走るもの  $24.2 \pm 4.49\%$ 、歐洲人  $62.2 \pm 5.17\%$ 。
- 四 眼動脈 (*A. ophthalmica*) の視神經の下側を走るもの  $6.1 \pm 1.87\%$ 、歐洲人  $15.0 \pm 5.65\%$ 。
- 五 肩胛橫動脈 (*A. transversa scapulae*) の前斜角筋の外側より分枝するもの  $18.9 \pm 2.69\%$ 、歐洲人  $8.1 \pm$

0.91%.

六 肩胛下動脈 (A. subscapularis) と後上膊廻旋動脈 (A. circumflexa humeri posterior) との共同幹  
39.8±2.12%, 歐洲人 6.6±1.11%.

七 上膊廻旋動脈と上膊深動脈 (A. profunda brachii) との共同幹 16.3±1.17%, 歐洲人 8.6±1.25%.

八 橈骨動脈掌側淺枝 (Ram. volaris superficialis a. rad.) が尺骨動脈と同等以上に強く發達するもの 8.0  
±2.71%, 歐洲人 36.2±4.22%.

九 總掌側第一指動脈 (A. digitalis vol. com. I) 二枝に分れ兩側に向きもの 17.0±3.76%, 歐洲人 69.2  
±4.05%.

一〇 肝動脈右枝 (Ram. dexter a. hep.) 肝管の前側を走るもの 7.0±2.14%, 歐洲人 14.4±2.61%.

一一 左副胃動脈 (A. gastrica accessoria sin.) の出現 11.1±1.98%, 歐洲人四五七例中零。

一二 閉鎖動脈 (A. obturatoria) の外腸骨動脈より枝出するもの 13.2±1.29%, 歐洲人 28.2±0.77%.

一三 深腸骨廻旋動脈 (A. circumflexa ilium profunda) の股動脈より枝出するもの 40.0%, 歐洲人 9.5%.

一四 膝膕動脈 (A. poplitea) の上方分枝 2.7±0.58%, 歐洲人 9.7±0.90%.

一五 脛骨榮養動脈 (A. nutritia tibiae) (a) 前脛骨動脈より枝出するもの 25.6±3.49%, 歐洲人 5.1±  
2.49%. (b) 後脛骨動脈より枝出するもの 21.2±3.27%, 歐洲人 10.1±3.53%.

一六 側跗動脈 (A. tarsae lateralis) の足背主要動脈を成すもの 1.7%, 歐洲人 9.1%.

一七 背側中足動脈二乃至四 (Aa. metatarsae dorsales II-IV) の弧狀動脈より出るもの、 $15.2 \pm 2.37\%$ 、  
歐洲人  $27.9 \pm 9.49\%$ 。

一八 内足蹠動脈 (A. plantaris medialis) の外足蹠動脈より強きもの、 $2.7 \pm 1.09\%$ 、歐洲人  $22.4 \pm 5.05\%$ 。

一九 深足蹠動脈弓 (Arcus plantaris profundus) が主として第二中足動脈の近位穿通枝より成立するもの、  
一三〇足中一例、歐洲人六六足中六例。

足立博士は以上の如き顯著なる差異點を五五箇所、稍、著しからぬもの三五箇所、差異なきもの二〇箇所、又著差ある五五點中、日本人に頻度多き異常は二〇點、歐洲人に多き異常は三五點を數へた。而して各異常の原始性を、比較解剖學、胎生學上より證して次の如き結論に達した。曰く、動脈系統に於ては日歐人間に原始性相半し、兩人種同一程度の進化階程に在りと。

### C 靜脈系統

日本人靜脈系統に關しては、田口、足立、望月、齋藤、飯島、劉、喜多、岡本、稗田、忽那、其他諸氏の研究がある。足立博士は近く之等の業績を集成發表せんとしてゐられるから、吾人はその結果を待つ事にしよう。

### D 血液

日本人血液の解剖學に關しては、正井、熊本、多田羅氏等の研究がある。正井氏によれば男學生百數十人の血液調査の結果、歐洲人に比して赤血球の比較數は甚だ大、赤血球直徑は稍、小、赤血球の血色素含量も亦稍、小である。

### 附 隣 帶 長

### 日本人軟部の解剖

米山氏によれば日本人幼生兒臍帶長は平均男兒五〇・三糎、女兒四四・六糎、兩性平均五二・四糎なりと云ふ。

## 二 淋巴管系統

日本人淋巴管系統の研究は木原氏及び其門下の系統的的研究其他がある。詳細は他日の紹介に委す。

## 第四節 内臟學 (Splanchnologie)

内臟解剖學は觀測點無數にあり、之が人類學的比較に就て一々此處に記述することは到底出来ない。以下重要なる觀察點、研究者等の名を擧げるに止める。

### 一 消化器系統

口脣 (生體部を見よ)。兔脣 (鈴木、一・一—一・五%)。齒牙 (尾形—三宅、宮原、中原、奥村—渡邊)。齶齒 (宮原—本峰、學童八六・八%、山浦、三輪、學生五八・九%、外來患者約一〇%)。唾液腺 (小川、耳下腺)。舌 (國友、大きな平均  $7.3 \times 4.8 \times 2.2$  cm, 輪廓乳頭の性状は歐洲人、黑人の中間)。食道 (鈴木、横山、歐洲人より短)。胃 (三宅、岡本、菅井)。腸管 (各部の長さ、岡本、久保、重村、三宅、杉田、長谷部、歐洲人に比して長しと云ふ。殊にS字狀結腸部然りと云ふ。又三宅氏によれば、日本人軀幹長は小腸長の  $\frac{1}{9}$ 、身長は同  $\frac{1}{4.87}$  なりと云ふ)。蟲様垂 (内野、鈴木(寛)、秋武、關場、塚本、吉川、歐洲人より小、缺除二〇—二二例中一回、閉塞七%、歐洲人の約三分の一、濾胞少數にして小)。メッケル氏憩室、大網、腹膜皺襞等 (工藤)。ヘルニヤ (伊藤)。肝臟 (唐澤、鈴木、大澤、長谷部、安田、工藤、歐洲人と少差あり)。脾臟 (唐澤、西川、淺井、工藤、大澤、鈴木、安田)。



A 腦 髓

日本人軟部の解剖

二 呼吸器系統

外鼻（生體部を見よ）。鼻軟骨（松本）。鼻毛（久保）。鼻中隔偏倚（岩田、三島、大澤、八九％、右偏五八％、左偏四二％）。鼻腔及び副鼻腔（吉永、國友、尾關、菊池）。喉頭（尾關、八木澤）。肺臟（小野、久保、小川）。肋膜腔液（大久保）。

三 泌尿生殖器系統

腎臟（安田、安達、唐澤）。腎盂（長谷部、歐洲人と稍異る）。游走腎（中村、淺原、各一〇・三％、男一三・二％、合計一一・七％、歐洲人より多い）。輸尿管（戸塚、羽太、北川、喜多）。膀胱（竹内、占部、品川、井上、容積平均各六四五、男六二三立方糎）。尿道（河野、歐洲人より短）。尿道口（戸塚）。子宮・膈（岡林、緒方、松島、重複〇・一八％、藤野二〇二六人中小兒子宮五六、小膈一〇、無膈二）。攝護腺（高木）。精囊（羽太）。外陰部計測（足立、平島、飯島、石川、藤野、鎌田等）。

四 内分泌器官

甲狀腺（尾關、堀澤）。胸腺（星）。副腎（星、長與、黒田、歐洲人より小）。腦下垂體（加門、歐洲人より大）。

第五節 神經學 (Neurologie)

一 中樞神經系統

第四十二表 平均腦重比較

著者	合		子		合—子 (瓦)
	調査數	腦重 (瓦)	調査數	腦重 (瓦)	
日 本 人	田 口	397 1367	156 1214	153	
	黒 川	240 1401.748	200 1255.552	146.196	
	長 興	329 1361.5	156 1241.7	119.8	
	木 村	295 1402	223 1249	153	
	星	? 1406	? 1261	135	
	吉 澤	211 1361	104 1231	130	
	平光—菱田	287 1382	221 1250	132	
歐 洲 人	Sims(英)	102 1412	93 1192	120	
	Perschappe(佛)	159 1323	129 1210	113	
	Peacock(蘇)	129 1423	66 1270	150	
	Boyd(英)	656 1325	667 1183	142	
	Wierbach(奥)	151 1265	92 1112	153	
	Bischoff (バイエル)	559 1362	347 1219	143	
	Bichermann(獨)	? 1372	? 1272	100	
	Ziehen(獨)	? 1353	? 1226	127	
	Ernst(獨)	? 1374	? 1244	130	
Marchand(獨)	? 1400	? 1275	125		

日本人の人類學

日本人腦髓に關しては、島田、布施、兒玉氏等の研究がある。其詳細は述べ難い(本講座平光氏参照)。たゞ腦重量に關しては古くより多數の報告があつて枚舉に遑ない程である(田口、長興、原、下田、黒川、木村、星、吉澤)。

一 腦重量平均値 右諸學者の成績及び歐洲人成績を第四十二表に表示する。

第四十二表によると、日本人、歐洲人共

に著者によつて出入はあるが兩者の間には著差はない。寧ろ日本人の平均値の方が一般に大なる傾向を有する。平均値の男女差に就ても同様である。爾餘の人類は一般に歐洲人より本平均値は小である。日本人腦重の月齡及び年齢による變化に就ては前記諸學者の報告があるが、吉澤氏の成績を引用すると第四十三表の如くである。

即ち男性は二一歳より三〇歳間に最大重量を示し、女性は一六歳、二〇歳間及び四一歳、五〇歳間に二回頂點を有する。

腦重は一般に身長に比例して増減する。





第四十三表 日本人腦重の月、年齢との關係

月齡及び 年 齡	合		女		合-女 (瓦)
	例數	平均 (瓦)	例數	平均 (瓦)	
1-5 月	9	434	5	371	63
6-12 月	8	623	3	739	-111
1-5 年	13	1065	9	991	74
6-10 年	10	1267	2	1175	92
11-15 年	7	1331	5	1180	151
16-20 年	19	1364	15	1262	102
21-30 年	47	1402	20	1242	160
31-40 年	33	1377	17	1238	139
41-50 年	41	1356	22	1232	94
51-60 年	33	1368	12	1200	168
61-70 年	25	1359	11	1154	205
71-80 年	13	1300	7	1204	96

日本人脊髄に就ては、久保、植苗氏等の研究がある。兩氏共に身長に對する比長の歐洲人より稍、大なることを指摘してゐる。各部の脊柱に對する部位の關係も一般に歐洲人よりは稍、低い。久保氏によれば體重に對する脊髄の重量は歐洲人に比して稍、大なりと云ふ。其他顯著の差を認めない。

日本人軟部の解剖

二 末梢神經系統

第四十四表

身長 階級 (厘米)	每種增量 (瓦)	
	合	女
133		8.8
143	9.3	8.7
153	10.0	8.2
163	8.5	

身長每一種目の日本人腦の增量は、田口氏によれば第四十四表の如し。又體重に對する腦重の比は日本人(田口)男  $\frac{28.3}{1}$ 、女  $\frac{23.3}{1}$ 、男平均  $\frac{40.6}{1}$ 、フェールオルト (Verrold) によれば歐洲人は男女平均  $\frac{1}{13}$ 、即ち日

本人腦重は比較的大である。但し著者によりて差異があり、此人種差は必ずしも明確ではない。

二 腦表面の形狀に就ては原、吉澤氏等の研究があるが、人種差は明かではない。腦髓組織に就ても同様である。

B 脊 髓

日本人末梢神經系統に就ては人類學的見地よりの研究は未だ不振である。上膊神經叢の分枝、腰薦神經叢の高位等に於て日本人は歐洲人に比し稍、原始的なることが認められてゐる（平澤、金關）。

## 第六節 總皮、識官學 (Dermatologie und Aesthesiologie)

### 一 總皮系統

日本人皮膚系統に就ては毛髮、色素、理紋等の研究がある。孰れも大略前章に紹介されてゐる。皮斑の組織學に就ては足立、師岡、加藤氏等の研究がある。其他皮腺の研究（石川、飯島、田所）等も行はれてゐるが、未だ大成されてゐない。

### 二 識官系統

眼の外形に就ては前章に略述されてゐる。第三眼瞼軟骨の出現は足立氏によれば二〇%。之は歐洲人より大、黒人より小である。眼底像に就ては井上、増田、石原氏等の研究がある。井上氏によれば、日本人眼底は暗褐色の色調比較的強しと云ふ。視神經は足立、氣賀氏等によれば、歐洲人に比して長い。

聽器に關しては、鈴木氏の耳殼の計測、觀測、志馬氏の外聽道測定、西村氏の内部構造、外山氏の鼓室、吉井氏の耳管、鍋谷氏の血管等の研究がある。嗅器、味器及び皮膚感官に關しては前記國友氏の輪廓乳頭の研究等及び猪子氏の皮膚知覺點分布の研究がある。同氏によれば日本人知覺點間の最短距離は、歐洲人に比して上肢では大、下肢では小なりと云ふ。

## 第二篇 日本人の人種生理學及び人種心理學

(Rassenphysiologie und Rassenpsychologie der Japaner)

本部門は前解剖部門の如く、比較的系統的に研究されることが未だ少い。従つて研究に多くの空所がある。其主要なるものを生理學、心理學の二部に分つて略述する。

### 第一章 日本人の生理學 (Physiologie der Japaner)

#### 第一節 運動生理

- 一 歩容 田代氏によれば日本婦人の歩容は人種差によるものではないと云ふ。最近佐藤氏の統計がある。
- 二 握力 檜崎氏によれば日本人右手握力平均は二一歳にて男三七・一砵、女二一・六砵である。他人種と比較するに米國人男五五・一砵、女三三砵、比律賓人男四三・五砵、女三〇・六砵、即ち日本人は男女共に之等二人種より小、男女差は其中間に來る。小兒期に於ても米國人に比して握力小である。比較數を略す。
- 三 スポーツ 前記秋田氏の身體比重測定の結果、日本人は比重低位型歐洲人等に比して甚だ多く、水泳選手として最も適當である。

第四十五表 日米兩國人血圧の比較 (耗Hg)

年 齡	性	ナストーレ期 壓平均		ナアストーレ期 壓平均		脈搏壓平均	
		日本人	米人	日本人	米人	日本人	米人
19以下	♂	108.4	122.6	63.8	81.5	43.9	41.1
	♀	107.6	110.9	64.8	69.3	43.8	41.4
20-29	♂	120.8	122.9	72.9	82.3	43.3	40.6
	♀	102.6	119.9	70.3	79.5	44.1	40.4
30-39	♂	123.0	124.7	75.4	84.6	47.5	40.0
	♀	119.1	120.2	71.9	83.1	47.3	37.1
40-49	♂	126.7	128.4	76.8	88.5	49.5	39.9
	♀	116.2	124.7	74.3	86.3	44.0	38.4
50-59	♂	135.6	132.3	80.9	90.0	53.8	42.3
	♀	127.0	125.8	70.0	90.0	57.0	45.8
60以上	♂	—	136.9	—	93.7	—	43.2
	♀	—	—	—	—	—	—

日本人の人類學

四 顔面表情は一般に歐洲人に比して乏しい。

五 左利 堀井氏によれば日本人壯丁二七三人中左利九人、三・三%を見たと言ふ。

六 疲勞等に關しては實驗心理學者側の研究が多くあるが省略する。一般に歐洲人は運動持續性大、黑人等は小で

ある。

## 第二節 代謝生理

一 心臟運動圖に就ては今村、中川—鹿岡、三河—野村氏等の研究がある。人種差は認められぬ。

二 血壓 石川、種村、柴山、石岡、林(友)、三河—野村氏等の研究がある。石岡氏により日米兩國人の比較を表示すると第四十五表の如くである。之に依れば日本人血壓は米人に比して低い。之は身長、體重の小なるが爲である。脈搏壓は之に反して米人より高い。年齢差男女差、身長—體重等との相關に關しては省略する。

三 脈搏數及び體溫 池田、田坂、長野、山本氏等の研究がある。山本氏によれば七歳以上の男女(八六六人)午前一〇—一一時、靜時の脈搏數及び體溫は第四十六表の如くである。此表によ



第四十六表 日本人脈搏數及び體溫平均

年 齡	合		男	
	脈搏數	體溫	脈搏數	體溫
7	85.8	36.8	90.0	36.47
8	91.7	36.9	93.9	36.87
9	91.3	36.8	90.8	36.80
10	86.6	36.6	90.3	36.48
11	84.4	36.6	86.5	36.60
12	83.7	36.6	83.2	36.43
13	82.2	36.6	82.5	36.47
14	81.6	36.6		
15	78.4	36.5		
16	82.1	36.5		
17	77.2	36.7		
18	76.5	36.5		
19	73.1	36.5		
20	74.8	36.5		
21	66.9	36.6		
22	66.7	36.6		
23	65.5	36.0		

七六三人（柳）平均三四六〇立方糎、男性七七二人（染川）平均三三三三立方糎である。之を英國人の男三六〇二—四六四六、米國人の男四四八七立方糎に比べると甚だ小である。柳氏材料にて、身長に對する比は二〇・〇、體表面積に對する比は二・一〇、之等も米人に比して小である。即ち日本人肺活量は、歐米人に比して絶對的にも比較的にも小である。年齢的差異等に就ては略す。

六 血液中殘餘窒素量は大西氏によれば日本人は歐洲人に比して小なりと云ふ。

七 排泄 尿量は高橋氏によれば三〇〇人平均一四五九瓦、比重は同じく一・〇一七、窒素量は毎坩〇・一五瓦、須藤、三田氏等によれば日本人健常尿は歐洲人に比し食鹽含量勝り、尿素の含量劣ると云ふ。小林氏によれば九州地

日本人の生理學

り成人平均を求めれば日本人男體溫三六・五度、脈搏數六七である。之は歐洲人に比して著しく小である。

四 基礎新陳代謝 岡田—櫻井—龜田氏等の研究がある。歐洲人との差は認められない。

五 肺活量 海軍醫務局及び柳、染川、石川氏等の研究がある。成人の成績は海兵二〇四〇人平均三四一五立方糎、大學生一

日本人の人類學

方海兵志願者五千人以上の男子にて、疝腫濕潤なるもの三・六%、腋臭あるもの三・四七%、兩存者二・四六%を見たと云ふ。腋臭に關しては足立、石川―野平氏等の研究がある。歐洲人、黒人の腋臭盛なるに對し、日本人には甚だ稀である。

第三節 反應生理

一 皮膚刺戟に對する反應時間は正井氏日本人男子一二三人についての平均〇・一四七秒(最小〇・一一五、最大〇・一九五)にして〇・一四一―〇・一五〇の階級が最も多い。歐洲人の成績に比較するに著者により或ものより大、或ものより小又或ものに似てゐる。

二 腱反射 日本人膝蓋腱反射に對する刺戟閾の測定(岩佐)は男性二〇人左右平均一九四〇―一・七一エルグである。

三 感覺 文部省統計によれば學生視力の調査の結果は(昭和元年)男學生正視四九・七二%、遠視〇・五九%、近視四二・九〇%、亂視其他一・五六%、色盲三・五〇%、女學生正視七二・九九%、遠視〇・五八%、近視二二・三三%、亂視其他一・三三%、色盲〇・〇四%であつた。

視野の形態、廣袤に就ては藤原、水尾氏等の研究がある。後者によれば大阪地方男性一〇〇人の視野形は歐洲人と著差あり、鼻根の低く、突眼なる點にて視野は廣くなり、顴骨高く、蒙古皺變の存在等によりて狭くなる。其他、視度、聽覺、嗅覺、味覺、觸覺等も人種差あるべしと思はれるが略す。



第四十七表 血液型頻度及び示数の比較

人種	人数	AB (%)	A (%)	B (%)	O (%)	A+AB	
						B+AB	po+ro qo+ro
北歐人種	2565+?	5.5	47.8	10.5	36.1	3.52	1.344
アルプス人	9788+?	4.4	40.8	11.5	40.0	2.95	1.256
地中海人	2857	4.9	33.8	12.1	47.9	2.31	1.169
猶太人	3123+?	7.5	38.3	19.9	30.6	1.79	1.178
日本人	10243	10.2	39.7	21.1	29.9	1.59	1.169
日本人(古畑)	54843	9.3	37.67	22.11	30.92	1.49	—
支那人	5950+?	8.5	27.4	26.7	37.3	1.06	1.027
黒人	1839+?	5.0	25.2	23.9	45.9	1.08	1.048

日本人の生理學

四 順應 氣候、風土等外圍の變化に對する日本人の順應力は、歐洲人、黒人等に比して比較的強きも、支那人程ではない。嚴密なる比較は爲し難い。

五 血液型 他人血に對する凝集反應の發、不發に依つて人血液をA, B, O, ABの四型に分ち、各型頻度の組合せにより人類を分類する事は最近約十年間の成果であるが、日本各地方人の血液型は既に大略調査されてゐる。此研究に従事した學者は甚だ多く、一々此處に擧げる事を略す。古畑氏の集成によれば日本各地方人五四八四三人の血液型は、O型三〇・九二%、A型三七・六七%、B型二二・一一%、AB型九・三%。之よりヒルツマフールド(L. Hirschfeld)の生物學的人種示數(Chologischer Rassen-Index)  $\frac{A+AB}{B+AB}$  を算出すると一・四九となる。之は同氏の所謂「中間型」又はオッテンベルヒ(R. Ottenberg)の所謂「湖南型」に屬する。之を他人種に比較すると、第四十七表の如くなる。但し各人種共、筆者が比較的純粹と認めたる各地方人の報告より集成した數字である。即ちA型の多い點に於て日本人は歐洲人等に近似し、他方B型頻度の大きな點に於て、支那人、黒人に近づくかんとする。一般東洋人は黒人と共にA型少く、B型大なる方に屬するも、日本人は以上の點に於て兩群の中間

的位置を占めるのである。地方的差を見るに、一般に九州、四國、中國地方はA型比較的多く、東漸するに従つてA型が減少する。B型は北陸、東北、近畿が比較的大にして、中國、九州地方は比較的小い。O型は東北、關東に多く九州、四國に少い。古畑氏等は此血液型の分布の現象と、指紋、身長との間に一定の相關を認めてゐる。

#### 第四節 性生理

一 月經 日本人月經の年齢的調査は多數の學者が調査に従事してゐる。山崎氏の集成によれば平均初經年齢一四七月より一五年九月に渉る。四國、東北等は比較的小く、大阪、愛知等は遅い。終經年齢は平均四三年六月乃至四

第四十八表 日本人月經統計

著者及び 地方	例數	平均年齢		
		初經	終經	持續
		年月日	年月日	年月日
熊谷(各地)	423	15.9	—	—
片山(〃)	366	15.5	47.6	33.4
濱田(〃)	1015	14.8	—	—
榊(〃)	100	14.8	45.6	31.0
木下(〃)	450	14.10	—	—
緒方—高橋 (〃)	1187	14.9	—	—
高田(四國 九州)	277	14.6	—	—
楠田(各地)	1250	14.7	—	—
山田(東北)	6820	14.7	44-49	26-36
安田(愛知)	1276	15.7	43.6	34.8
大塚(各地)	2929	14.10	45.7	30.10
緒方(大阪)	4265	15.4	—	—
小川—八田 (北陸)	1000	14.9	—	—
高辻(香川)	208	14.10	—	—
山崎(九州)	1585	14.11.8	46.6.2	32.9.7
山崎(各地)	4861	14.10.6	—	—
九州	1005	14.11.12	46.5.9	30.6.27
中國	538	14.10	46.8.20	35.0.12
四國	250	14.9.13	—	—
關東	988	14.6.26	—	—

七年六月(一四九)。平均持續年數は、三〇年六月(二六一)より三五年〇の間である。各報告を表示すると第四十八表の如くなる。右の結果を歐洲人に比べると、北歐人を除けば歐洲人は一般に之より早く始まり早く終る。南歐人は殊に



早い。即ち一般に日本人より早熟、早老である。なほ山崎氏論文にはアイヌ、臺灣琉球婦人との比較あるも略す。

二 性生活 日本人男性自慰及び性交開始の年齢は一般に歐洲人に比して晩期に傾く（山本）。

三 分娩 日本婦人分娩時間は木下氏によれば六〇九一回の平均、全一〇時一九分三〇秒間である。之は歐洲婦人より短い。多産に就ては羽柴氏の報告がある。一産六兒を最多例とする。歐洲人の如き多産例はない。不妊に就ては藤野氏の研究がある。分娩兒の男女數比例は、人口調査時の男女比例と一致しない。之に就ては杉浦氏の詳細なる研究がある。但し歐洲人との差は明かでない。

### 第五節 發育生理（生長）

#### 一 子宮内發育

身長及び體重、腦重量の子宮内に於ける發育に關しては杉浦、國友氏等の研究がある。後者によれば日本人胎兒は歐米人に比し八週にて身長平均一〇耗短く、妊娠末期にて體重四〇〇瓦大なりと云ふ。

#### 二 子宮外發育

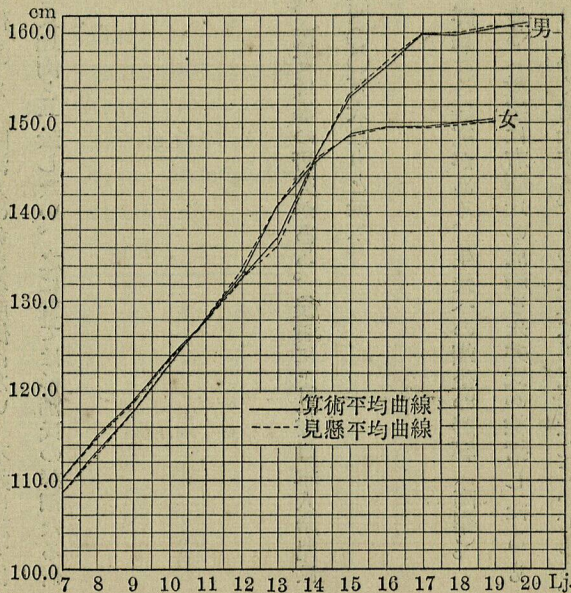
三島、三輪、北原、長谷川、田原、吉田、石川諸氏の孰れも詳細なる研究がある。生長への端坐の影響（高梨）。

一 身長 日本人男女身長の發育は第四十九表に示す如くである（數字は右諸氏の成績を永井氏の綜括したるもの）。之によると、女兒は男兒に比して思春期加速度は早く現れ、早く消失する。その強度は男兒に比して小である。以上の點及び加速度の起首はホルト（Holt）の米國人と同様であるが、加速度の最高點では男女共に米人よりも遅い。

又本加速度は米人に比して二年程持續が永い。即ち日本人は男女共に米人よりは晩熟である。田原氏によれば、身長發育曲線は第四圖の如くである。

第四十九表 日本人身長の發育 (糶)

年 齡	合			男		
	調査數	身長平均	年増加	調査數	身長平均	年増加
1	123	72.3	5.1	120	70.7	5.6
1-2	424	77.4	7.3	396	76.3	8.3
2-3	310	84.7	6.9	265	84.6	6.3
3-4	471	91.6	5.5	312	90.9	5.4
4-5	839	97.1	5.7	629	96.3	5.8
5-6	1037	102.8	5.1	877	102.1	4.6
6-7	1377	107.9	4.6	987	106.7	3.3
7-8	1566	112.5	4.6	1281	111.0	4.0
8-9	1378	117.1	4.5	1041	115.0	4.2
9-10	1373	121.6	3.3	935	119.2	5.2
10-11	1241	124.9	3.5	783	124.4	5.3
11-12	1213	123.4	5.2	707	129.7	6.2
12-13	1038	133.6	6.4	555	135.9	5.2
13-14	750	140.0	5.5	455	141.1	2.6
14-15	554	145.5	4.8	425	143.7	2.0
15-16	300	150.3	4.8	189	145.4	2.3
16-17	346	155.1	2.8	172	148.0	2.6
17-18	416	157.9	0.3	46	145.4	1.1
18-19	326	158.2	0.2	67	146.5	0.2
19-20	254	158.4	0.6	63	146.3	0
20-21	254	159.0	—	40	146.3	—



第四圖 日本人身長發育曲線 (田原)

二 體重 日本人男女體重的發育は第五十表の示す如くである(永井氏表)。これに依ると日本人男兒體重増加の思春期加速度は米國人に比して一年程早く、其頂點も一年早い。然るに本加速度の持續は米人に比して永い。即ち日本人男子は體重の點では米人よりも早熟且つ晩熟である。女子體重の點に就ては右の加速度期は米人に比し早く起り、

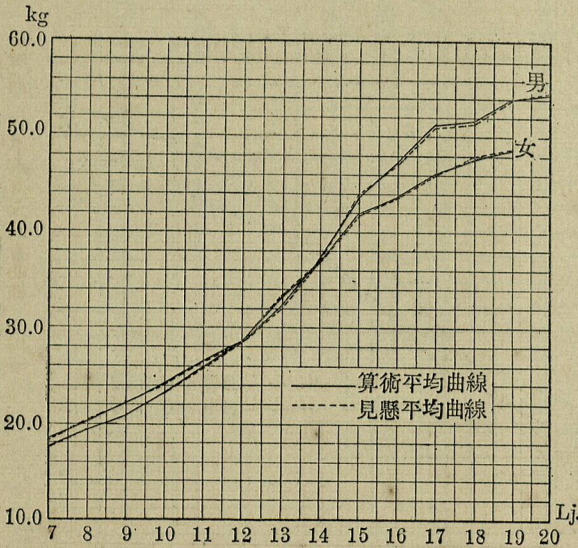
第五十表 日本人體重の發育 (旺)

年 齡	合			子		
	調査數	體重平均	各年増加	調査數	體重平均	各年増加
1	77	9.0	1.8	64	8.5	1.4
1-2	315	10.8	1.6	280	9.9	1.6
2-3	262	12.4	1.3	237	11.5	1.4
3-4	420	13.7	1.5	253	12.9	1.6
4-5	701	15.2	1.3	527	14.5	1.5
5-6	901	16.5	1.2	775	16.0	1.2
6-7	1289	17.7	1.5	903	17.2	1.4
7-8	1408	19.2	1.6	1202	18.6	1.8
8-9	1259	20.8	2.0	965	20.4	1.7
9-10	1275	22.8	1.8	864	22.1	2.2
10-11	1147	24.6	2.2	712	24.3	2.9
11-12	1006	26.8	2.3	622	27.2	3.5
12-13	923	29.1	3.9	480	30.7	4.4
13-14	683	33.0	5.3	424	35.1	2.6
14-15	482	38.3	3.2	281	37.7	2.9
15-16	230	41.5	4.0	154	40.6	3.1
16-17	264	45.5	3.9	146	43.7	1.0
17-18	273	49.2	0.2	31	45.3	0.5
18-19	174	49.4	1.7	35	45.8	0.6
19-20	134	50.9	0	37	45.2	0.9
20-21	130	50.9	—	18	46.1	—

日本人の生理學

早く消える。即ち日本人女子は米國人よりも稍、早熟である。然し加速度の頂點の出現は米國人よりも晚く、且つ永く續く。此點に於ては寧ろ晩熟と云へよう。田原氏による體重増加曲線は第五圖の如くである。

三 胸圍及び坐高 日本人男女胸圍及び坐高の増加表は第四十九表に見る事が出来る(永井氏表)。之によると胸



第五圖 日本人體重發育曲線 (田原)

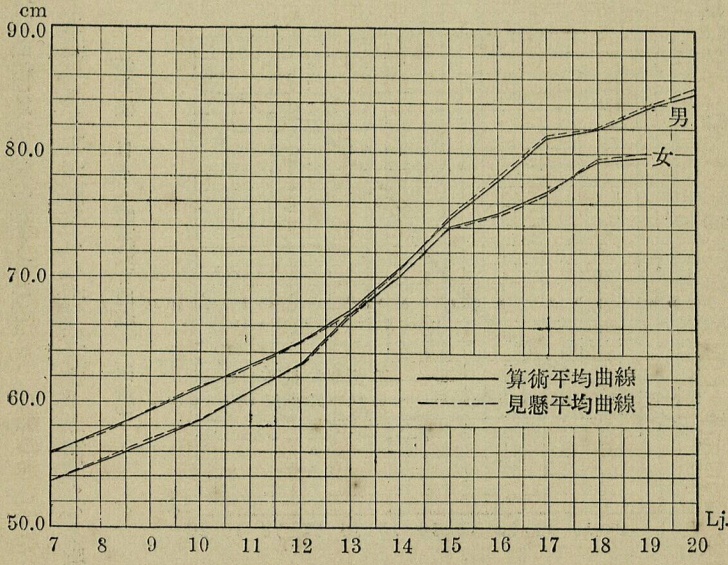


第五十一表 日本人胸圍及び坐高の發育 (糧)

	年齢	合			♀		
		調査數	平均值	各年増加	調査數	平均值	各年増加
胸圍	6	401	54.3	2.3	349	52.3	2.2
	7	415	56.3	2.4	413	53.6	2.5
	8	453	58.1	2.6	413	55.1	2.6
	9	453	59.8	2.5	440	56.7	2.8
	10	448	61.4	2.7	416	58.9	3.0
	11	439	62.9	2.7	414	60.9	3.6
	12	296	65.5	3.0	325	64.4	4.2
	13	254	68.2	3.7	331	68.2	4.3
	14	96	71.0	3.9	184	71.6	4.1
	15	99	75.4	3.9	193	73.6	4.1
16	86	78.1	3.2	80	74.0	4.2	
坐高	6	402	63.0	2.3	348	62.5	2.2
	7	415	65.3	2.4	411	64.3	2.3
	8	453	67.1	2.6	413	66.3	2.3
	9	452	68.8	2.5	436	68.2	2.7
	10	449	71.1	2.7	414	70.1	3.0
	11	439	72.6	2.7	415	72.7	3.2
	12	298	74.8	3.0	326	75.4	3.5
	13	253	77.3	3.7	331	78.5	3.5
	14	95	80.5	3.9	184	81.0	3.2
	15	99	83.9	3.9	193	82.1	2.6
16	66	86.9	3.2	80	82.6	2.6	

日本人の人類學

圍及び坐高では、思春期加速度の點に於て身長、體重の如き程度  
 の男女差はないが、夫でもなほ女子は男子より孰れも約一年早く  
 起始する。田原氏の胸圍發育曲線(第六圖)では、



第六圖 日本人胸圍發育曲線 (田原)